

議会史ちょっとのぞいてみよう

(13) 博多どんたくの中断と復活

令和2年「第59回博多どんたく港まつり」は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となりました。『福岡市議会史 第4巻』には、戦争中7年間も中断を余儀なくされた後の復活が記されています。

第二次世界大戦中、一時中断していた「どんたく」は終戦後まもなく復活します。福岡市街地を焼き尽くした米軍の空襲から1年もたたない昭和21年5月29日、空襲被災の中心に近い奈良屋校区の住民有志は、「第一次博多復興祭」を催し、博多の伝統行事である三福神を中心とした「松ばやし」と、にぎやかな「どんたく」行列を再開、がれきが残る中に家が建ち始めた街に繰り出しました。翌22年には5月24日、25日、福岡市と福岡商工会議所が主催する「復興祭」のメインイベントの一つとして、どんたくが全市的に行われました。

こうして復活した「どんたく」は昭和24年からは、博多港の宣伝も兼ねて市と商工会議所などが主催する「博多どんたく松ばやし港祭り」として行われることになりました。祭りの主催者の一員となった市は、昭和24年度予算から商工費の中で「港祭負担金」（後に商工祭負担金）を計上し、その後「博多どんたく港まつり」を市民の祭りとして育てていくことになりました。

「どんたく」の祭り期間は一時、5月3日、4日、5日の3日間となった時期もありました。しかし、長い伝統はそう簡単に変えられるものではなく、昭和32年の「博多どんたく松ばやし港祭り振興会」の結成を機に、どんたくの期間は2日間、毎年5月3日と4日とあらためて決められました。

<福岡市議会史 第4巻「昭和編（二）」第二十章 文化財保護と文化の振興から>